

熱供給事業で頑張っている
技術者の声をお届けします！

熱のVoice ①

エキスパートチーム編

関西国際空港熱供給株式会社
技術部設備課



左が家谷氏、右が神田氏

地域導管グループ

「快適な空の旅に貢献する熱供給の信頼性を きめ細かなメンテナンスで確保」

所属する部署の主な業務内容を教えて下さい。

家谷 弊社では、平成6年の関西国際空港開港より、空港のターミナルビルやホテルなど35施設に熱を供給しています。私たちが所属する地域導管グループは、共同溝配管や地中埋設管路のピットの点検、地域導管設備全般の維持保全業務を行なっています。導管の保全が主なので、安定的に供給する、という当たり前のことを日々の目標としています。

目標達成のために、努力されていることなどを教えてください。

家谷 日々のきめ細かなメンテナンスに尽きると思います。弊社の地域導管には、2つの特徴があります。



スチームトラップの点検の様子
(左：家谷氏、右：神田氏)

1つは、供給エリアが埋立地なので、地盤沈下の影響を受け、伸縮継手の異常変異や、フランジ部の漏洩、配管架台の脱落等のトラブルが発生しやすいことです。2つめは、地域導管の総延長が約20kmとかなり長く、その半数以上が埋設配管であることです。埋設配管には電気防食を施していますが、防食不良が発生すると配管の穴あき等のトラブルにつながりますので、特に気を付けています。

日常点検や定期点検などによりトラブルを早期発見し、適切な処置を施すことによって供給停止となることを未然に防止しています。

お仕事の喜び、やりがいなどを伺わせて下さい。

神田 関西国際空港は一昨年度、旅客数が過去最高を更新し、島内施設も次々とリニューアルされ発展を続けています。地域導管グループの業務は一般のお客さまの目に触れることはありませんが、お客さまが空港内で快適に過ごされている姿を見る

と、たくさんの方々の快適な旅に貢献できていると実感できます。発展していく空港の運営に役立っていると感じられて、やりがいを感じます。

今後の目標をお聞かせ下さい。

家谷 関西国際空港は、人と地球にやさしい「環境先進空港」をめざして先進的な環境施策に取り組んでいます。弊社もそれを担う一員として、高効率機器の導入や、日々の小さな改善などをコツコツと積み重ねて、お客さまに信頼される熱供給を目指し、地域社会に貢献できるよう努力していきます。

家谷 太士氏 (Yadani Futoshi) 略歴

2000年関西国際空港熱供給(株)入社。入社後地域導管部門に在籍し、数年間他部所に異動したが、1年前から再度地域導管部門に勤務。エネルギー管理士、一級ボイラー技士、公害防止管理者、第一種冷凍機械責任者などの資格を有する。趣味は日曜大工。

神田 智己氏 (Kanda Tomoki) 略歴

2013年関西国際空港熱供給(株)入社。地域導管部門に配属される。一級ボイラー技士の資格を所有。今年の1月に娘が誕生。子育て奮闘中。

(取材：古谷 利夫 広報委員)